

ケチャップの名品に
企業秘密はない、
真似できないだけだ。



火の国 阿蘇の
恵みのブランド

然
azen
A s o C i t y

規格外品といっても、どこかに落ち度があったわけではない。
「きのう収穫するべきものを、きょう収穫した」というレベルの、
厳密な基準からすると少し熟れ過ぎのトマトだった。
吉田清二さんは、その赤いトマトをしげしげ眺めていてピンとききます。
さつそく名人に相談した。

「ケチャップになりませんか」。

「ええ、できるとよ」名人はあっさり太鼓判を押してくれた。

技が冴えて名品が生まれる。これぞ「阿蘇ものがたり」の代表作。
そもそも、大型農業をこころざすのではなく、

いわゆる高付加価値農業を目指していた。

阿蘇の産物に付加価値を！だ。

さて、その名品ケチャップ。あとは売りこみである。

なかなか浸透しなかったが、

人呼んで「スッポンの吉田」、決してあきらめません。

いちど味わってもらえばすべてわかる、の信念。

まさにそのとおりになった。

工房阿蘇ものがたり 吉田清二

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。